

ミナミハンドウイルカはいつ頃子どもを産んでいるのか？ Part 2

2018年8月に発行したイルカ通信No.85では、「ミナミハンドウイルカはいつ頃子どもを産んでいるのだろうか？」という話題についてお話ししました。それから早5年近く。今号では、その後の調査でのデータの蓄積によって、より一層はっきりとしてきたミナミハンドウイルカの出産時期について、その最新情報をお届けします。

まず、どのようにしてイルカの出産時期を調べるのかですが、生まれて間もない赤ちゃんイルカの体に見られる「胎児線 (fetal lines)」と呼ばれる数本のしわを手がかりにします(図1)。この胎児線がいつまで見られるのかは個体の健康状態などに左右されるようですが、生後1~3ヶ月ほど残っていることが報告されています(Mann & Smuts 1999)。ここでは、2003~2022年に実施した個体識別調査で観察された、胎児線が残った赤ちゃんイルカ52個体の初確認月を調べました(図2)。その結果、新生児の初確認は5~12月に限られており、中でも特に6~9月に集中していることが明らかになりました。イルカ通信No.85でも、同様の傾向となることをお伝えしましたが、今回、データ数が増えたことで、その傾向がよりはっきりと示されました。新生児が6~9月によく見られることから、小笠原のミナミハンドウイルカは主に夏頃に出産している可能性が考えられます。

ザトウクジラシーズンも終盤を迎え、これからはイルカシーズンに突入します。夏に向けて、生まれたばかりの赤ちゃんイルカの見撃も増えてくると思いますが、仔イルカたちが元気に成長してくれるよう、私たちも優しくそっと見守っていききたいですね。

【引用】Mann J, Smuts B (1999). Behavioral development in wild bottlenose dolphin newborns (*Tursiops sp.*). Behaviour, 136 (5), 529-566.



2022年11月8日



図1. 新生児に見られる胎児線

#166(嫁フック)とその子ども。提供データから、この赤ちゃんイルカは、2022年8月5日にはすでに生まれていたことがわかっています。8月23日に調査で確認した時には、胎児線が白っぽく残っていました(写真上)。最初の確認から約3ヶ月経過した11月8日にも、まだ胎児線が見て取れました(写真下)。

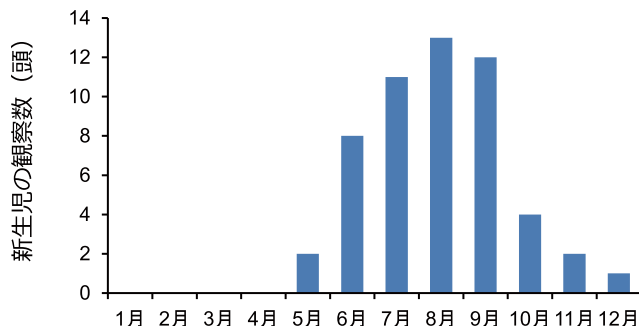


図2. ミナミハンドウイルカ新生児の初確認月

胎児線のある個体の初確認月は5~12月に限られており、特に6~9月に集中していることがわかります。なお、調査回数を考慮して集計しても、夏頃に多い傾向が見られました。

小笠原ビジターセンター 特別展 年間展示

ザ・小笠原のイルカ展~あのこどんなこ、きになるこ~

4/29~

ミナミハンドウイルカがこの展示の主役です。個体識別されたイルカたちがわかりやすく紹介されています。イルカの生態に関する解説も満載ですので、ぜひご覧ください！

開催期間:2023年4月29日~

お楽しみに!

開館日:おがさわら丸入港中

#19スボッティ

開館時間:8時30分~17時

(Gwは毎日開館。詳しくはイベント

ポスターをご覧ください。)

